



RI 2600 地区諏訪グループ

諏訪湖ロータリークラブ

会長/高山 巖 幹事/小口 直

例会木曜日 PM12:30 ぎん月 事務所 〒393-0031長野県諏訪郡下諏訪町御田町31566-1すてっぷカサイ内 TEL/0266-27-8455



<http://www.suwakorc.net>

Email: suwakorc@suwakorc.net

第1521回例会報告

平成29年 9月 14日 (木) 晴れ

会長挨拶

会長 高山 巖



★幹事報告

【報告事項】

1. 来週は理事会があります。理事の皆様はご準備をよろしくお願いいたします。
2. 10月15日(日)は、長野のホテル国際21で地区大会が開催されます。多くの会員の参加を期待します。
3. 三クラブ合同夜間例会の通知をFAXいたしました。9月21までに、返信ください。

【連絡事項】

1. 『第2回小学生のための遊覧船から諏訪湖見学』諏訪市の小学生を対象にパンフレットを配布しました。追って詳細は連絡しますが、ご協力をお願いします
2. 国際ロータリー2600地区青少年交換委員長の若林俊樹様より挨拶メールがありました。昨年は、グェンドリヌのホスト、小出木々菜さんのスポンサーをいただき、大変ありがとうございました。お礼に伺わなくてはならないのですが、来日学生の受け入れや、帰国報告会の準備の都合があり、伺うことができません。地区大会後、別途日程を調整させていただきます。小出木々菜さんを含めご挨拶に伺う予定ですので、ご容赦下さい。・・・とのことです。
3. ダイナスクラブユーポレートカード・クラブカード加入推進のお願いが地区より届いております。理事会で検討します。

【受領文書】

1. ハイライト米山が届きました。
2. ロータリー平和フェローシップニュースレター第一号が届きました。

今日は、数ある恒例行事の中でも非常に大切なガバナー公式訪問例会日です。

お客様をご紹介します。

始めに2600地区「関邦則」ガバナーをご紹介します。

続きまして「丸山裕之」ガバナー補佐です。

関ガバナーのご経歴、活動方針につきましては、皆さんご承知のことでしょうから、ここであらためてはご紹介申し上げませんが、毎月の『月信』の表紙写真は、一級建築士・関邦則先生としての作品が連載されております。私も職業柄、建物には非常に興味があり、毎刊楽しみに拝見させていただいております。

先刻までの懇談会では、ご丁寧なご指導をいただき、背筋をピンと伸ばして参りました。のちほど、関ガバナーには重厚なる卓話をいただきますので、私は、ちょっと軽い話をさせていただきます。

最近のテレビ業界は、バラエティー番組はもちろんのこと、連続ドラマは別として、ほとんどの番組、たとえばNHKの伝統ある歌謡番組からニュースに至るまで、“お笑い芸人”と称する人々であふれています。「明石家さんま」や、今では観ることがなくなった「島田紳助」達が、大阪弁そのまま、えげつなく出演者をからかったり、タメロで相手をなじっているように感じ、私にはなじめませんでした。しかし、今の“お笑い芸人”によるテレビ番組の全盛を築いたのは「明石家さんま」「島田紳助」達によるものなのだそうです。

「明石家さんま」はもとはれっきとした『落語家』であったのですが、あるプロデューサーに見出されて一気に開花しました。若い頃の彼らは、時間さえあれば“しゃべくり”の稽古をしています。仕事柄アタリマエでしょうが、喫茶店などにたむろして、来店してくる業界には関係のない、普通の客を自分たちに都合の良い架空の人物に仕立てあげては、アドリブで話芸作りを競っていたのだそうです。「島田紳助」は、18才で漫才の世界に入ったのですが、その時から『週刊エコノミスト』などの経済誌を愛読し、国内経済や世界情勢を勉強していたようです。

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のことば
会員数	37人	7名	13,000円	9/12からの世界保護観察会議での様子が9/207:00~8:00の間でNHKで放映されます。忘れなかつたらご覧ください 小林 聖仁 孫娘二人が70回条幅の部特選記念賞と金賞 半紙の部金賞と銀賞に入賞しました。孫の快挙に喜んでおります。 御子柴文夫 今日は記念写真を撮ります。ご協力をお願いします。河西達夫
出席対象	37人	累計	116,000円	
出席者数	32人	目標額	60万円	
出席率	86.5%	達成率	19.3%	
前回修正	83.8%			

♪今週のことば～続き～

関ガバナーをお迎えして本日は宜しく尾根ギアします。 大澤 邦彦・平山隆勇・近江誠一
本日はガバナー訪問例会日として関ガバナーをお迎え致しました。丸山ガバナー補佐にもご同席頂き誠にありがとうございます。宜しく願い申し上げます。 高山会長



2017-2018年度 国際ロータリーテーマ

ロータリー：変化をもたらす

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

ウィークリー-の原稿送付先: pr@suwakorc.net

会長挨拶～続き～



また、若い頃の「明石家さんま」は、靴に必ず「朝日新聞」の朝刊を持ち歩き、時間が空いたら政治、経済、国際、社会面を隅々まで読み通していました。当時多くの若者や芸人達の読みものは『週刊明星や週刊平凡』だった時代です。

今のテレビでは、バラエティー番組が隆盛を極めていますが、これらの番組にみられる共通点は、一つは「素人の露出」です。代表的なのは「鶴瓶の家族に乾杯」で、出てくる素人さんは皆、まるで家族や友達と喋っているかのような“生活ことば”で喋っています

もう一つの共通点は「お笑い芸人の存在感」です。いわゆる『ひな壇』と呼ばれる席にお笑い芸人がずらりと並ぶ光景は、一昔前にはありませんでした。名人芸と言われた「横山やすし・西川きよし」らの漫才は“生活ことば”ではなく日常会話に見せた職業会話、いわば“漫才会話”であり、俳優が台詞を覚えて役柄を演じるように、漫才師は作家が書いた台本を記憶して漫才師を演じていたのです。

ところが80年代の漫才ブームで“革命”が起きました。主演したのは東の「ビートたけし」西の「島田紳助」。二人は楽屋での素(す)の自分たちをそのままさらけ出した、自分たち独自の“生活ことば”で漫才をやっていた訳です。当初彼らは、「漫才をなめたらアカン」と先輩漫才師から、ムチャクチャ批判されました。漫才ブームのあとは、伸助・たけしらが一同に会してコント番組を始めました。代表的なものは『オレ達ひょうきん族』です。

ただ、それも彼らにとっては、世に出るための仮の姿に過ぎなかったようです。大事なことは、自分のことばで、自分の生活を語って笑いを取る事でした。自分を出すだけで自分を中心とした“集団芸”となり、それがあの『ひな壇』という形になったのだそうです。大阪弁にはなじめないと思っていた私ですが、素のことば、“生活ことば”だけで業界を変えてしまう力を出せる人達には、やはり天賦の才があるものだなと、彼らに対する従前までの偏見を無くしました。

言葉とは、使い方次第で、家庭や仕事での人間関係を、なんぼでも変えることができる。そこに愛情あるコミュニケーションが生まれれば、それこそが言葉の本質的な意義であると・勉強いたしました。

私なりの基本的教育と識字率向上です。ありがとうございました。



R I D 2 6 0 0 共に歩む一年 2017-2018
国際ロータリー第2600地区2017-2018年度 関 邦則ガバナー



関がバナーの自己紹介です

RI方針について説明をして頂きました



地区方針・行動計画について説明をして頂きました

ロータリーについて再度、認識できるように説明して頂きました

